

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 東京蒲田医療センター

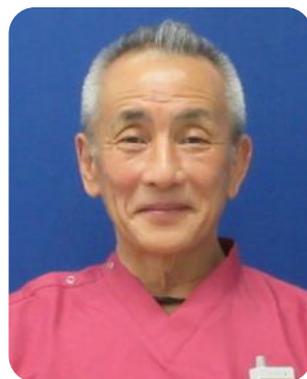


くすのき

2020年11月
< Vol. 7 >

新型コロナウイルス感染症への取り組み

院長 石井耕司



日頃より、当院の運営にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に関しましては医療機関の皆様も対応にご苦労されておられることと存じます。

当院では、2020年2月18日からダイヤモンド・プリンセス号からのCOVID-19患者様の入院を受け入れてから現在に至るまで当センターに135名のCOVID-19患者様の入院をお受けしております。また、4月28日からは当センターの帰国者・接触者外来に大田区保健所からの依頼で859名（2020年10月9日現在）の新型コロナウイルスRNA検査を行ってきました。今後も「地域に求められる医療を提供する病院」として、新型コロナウイルス感染症に注意を払いながら病院運営をして参る所存です。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

患者様や医療従事者への感染防止のため、当院外来では次のような対策をとっています



外来受付にビニールカーテンを設置しています



ソーシャルディスタンスの待合室では1日2回椅子などを消毒しています



病院入口では手指消毒をお願いするとともに、サーモカメラによる検温を行っています



物資不足時は、OHPシートで作成したシールドを受付担当者は着用していました



感染の疑いがある患者様は救急外来の陰圧テントで診察します

患者様が安心して入院できるように私がお手伝いします ～入院時支援看護師のご紹介～

はじめまして 三上真紀と申します。

私は、“入院時支援看護師”として今年の4月より地域連携室で勤務しています。

皆様のなかには「入院時支援看護師って何？」と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、当院の入院時支援についてご紹介いたしますのでお付き合いください。

まず、“入院時支援”とは、入院を予約された患者様やそのご家族が、安心して入院日を迎えられるようにお手伝いすることです。

思いがけず病気が判明して入院を勧められた患者様やご家族は、不安な気持ちで一杯になることが多いと思います。入院生活の事、退院後の生活や経済的な事を相談したくても、どのタイミングで誰に相談すればよいのかわからずに悩む事もあると思います。入院時支援看護師は、そのような患者様のお役に立ちたいと願っております。

入院時支援の方法は、まず医師から患者様への病状説明時に同席させていただきます。次に、患者様やご家族と面談し、入院のご案内をしながら気がかりなことについて伺います。そして、医師・栄養士・薬剤師・入院予定病棟の看護師と連携して患者様の不安や心配事にお答えします。その他、当院では医療福祉相談員が患者様に寄り添った支援を行う体制が整っておりますので、ご紹介することもできます。

患者様やそのご家族の方々が、安心して入院日を迎えられるように入院時支援看護師として日々頑張っています。どうぞお気軽にご相談ください。

入院予定病棟へ患者様をご紹介

「寒さが苦手な方なのでお布団もう一枚追加して下さい」



入院生活についてご案内

「入院時に用意する物で分からない事はありますか」



病状の説明を一緒にうかがいます。

「もう一度確認しておきたい事はありますか」





療養介助員のおしごと

療養介助員さんにインタビューしてみました

Q1. 仕事内容を教えてください。

清潔介助など患者さんの身の回りのお世話や検査への付添など看護師の補助が主な業務です。

Q2. 職場の雰囲気はどんな感じですか？

コミュニケーションもとやすく、よい雰囲気です。

Q3. 普段から心がけていることはありますか？

笑顔と丁寧な言葉で患者さんに接することです。

Q4. やりがいを感じる時はどんな時ですか？

患者さんの笑顔が見られたときや、介助をしたことに対して感謝の言葉をいただいた時です。

Q5. 今後の目標はありますか？

介護福祉士の資格をとって働きたいなと思っています。

Q6. 無資格、未経験でも大丈夫ですか？

大丈夫です。年3回研修があり、技術の講義や実技練習をする機会があります。

Q7. 家庭との両立は難しいですか？

今は十分に仕事に慣れていないので大変だなと思うこともありますが、もう少し慣れたら楽になるかなと考えています。（勤務歴5ヵ月）



～包括支援病棟の療養介助員の主な業務～

- 午前 看護師とペアで入浴介助
検査付添い
患者さんのベッドサイドの環境整備
- 午後 食事介助
排泄介助（オムツ交換やトイレへ行く介助）
シーツ交換



あなたも療養介助員として、一緒に働いてみませんか？

常勤・非常勤（週3回、4時間/日可） 詳しくは看護部までお問い合わせください

健康管理豆知識シリーズ第1回



大丈夫？あなたの血圧

第1回「自宅での血圧測定について」

循環器内科診療部長 藤井悠一郎



血圧計ってたくさんあって、どれがいいのかわからない！どう選ぶの？いつ測ればいいのか？そんな質問を八王子市在住Kさんからいただきました。今回からシリーズで行う予定「大丈夫？あなたの血圧」。第1回「自宅での血圧測定について」を循環器内科部長の藤井先生にお伺い致しました！

高血圧の治療を行う上で、自宅で測定した血圧は診察室で測定した血圧以上にとっても大切な治療の指標となります。これは自宅での測定値は診察室での測定に比べ本人の緊張状態や直前の行動による血圧変動の影響を受けにくく、より正確な値を測定することができるためです。ここではより正しく測定するために注意していただきたいことをいくつかご紹介します。

Q1.血圧計ってどう選ぶの？

現在、主に手首で測定するものと上腕（肘の上）で測定するものが市販されており、一般的には上腕で測定するものが最も正確とされています。しかし、自宅での血圧測定は基本的に毎日かつ長期的に行う必要があるため、測定器の性能よりも操作しやすさを基準に選ぶのもおすすめです。

Q2.いつ測るの？何回測るの？

血圧測定は朝と夜の2回測定が基本です。1回に1～3回測定し、その平均値を測定値とします。朝は起きてから1時間以内に排尿を済ませて朝食を食べるまでの間、夜は就寝前が理想的です。4回以上の測定はむしろ良くないといわれています。

Q3.いつから治療すればいいのか？

自宅血圧135/85mmHg以上を高血圧と診断しますが、薬物療法が開始となるのは食事療法や運動療法などで生活改善を行ってもなお140/90mmHg以上が続く場合です。そのような状態が続くときは受診を検討して下さい。

以上、自宅での血圧測定について気をつけていただきたいことを解説いただきました。最も大切なのは自宅測定を長く続けること、だそうです。ご自身の生活リズムに合った、無理のない測定方法を心がけて下さい！

次回以降、高血圧の運動・食事・薬物療法を予定しています。お楽しみに！



独立行政法人地域医療機能推進機構

東京蒲田医療センター

Tokyo Kamata Medical Center

〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-19-2

☎03-3738-8221(代表)